

令和 8 年 第 2 回 定例会

請 願 調 査 一 覧 表

防災環境産業委員会

受理番号	受理年月日	件名及び要旨	提出者住所氏名	紹介議員氏名	調査結果												
8 年 第 1 号	8. 5. 26	<p>「結城紬」の振興に関する請願</p> <p>本県を代表する伝統工芸品である結城紬は、「糸つむぎ・緋くり・地機織り」の3技法が、昭和31年に国の重要無形文化財に指定されるとともに、平成22年にはユネスコ無形文化遺産にも登録された世界的にも価値の高い絹織物である。</p> <p>2000年とも言われる長い歴史の中で脈々と受け継がれてきた高度な手作業の技術と高い芸術性は、本県の誇るべき文化資産であるとともに、地域を支える産業でもある。</p> <p>しかしながら近年は、着物を着用する機会の減少や需要の低迷に加え、生産従事者の高齢化や後継者不足、原材料不足などにより、生産量は、年間約53,000反(大正10年)をピークに、昭和55年に約31,000反を生産した以降は年々減産し、現在は約500反と大きく減少しており、結城紬を次世代に継承していくことが重要な課題となっている。</p> <p>また、結城紬は40数工程もの手作業による高度な技術によって生産されることから付加価値が高く、一方で実際に着用する機会が少ないことから、その魅力を体感する機会が少ないことも課題となっている。</p> <p>このため、結城紬の魅力を広く発信し、実際に「見る」「着る」「触れる」機会を創出することは、伝統文化の継承と地域産業の振興にとって極めて重要である。特に、観光客や県民が気軽に結城紬を着用できるレンタルや体験の仕組みを整備することは、観光振興と結城紬の需要創出の双方に資する取組みである。</p> <p>こうした中、結城市はこれまで、技術習得奨励金などの経済的支援、元横綱稀勢の里(二所ノ関親方)への結城紬大使委嘱、着物で結城の街歩きを楽しむイベント「きものday 結城」、主要都市での求評宣伝会、市議会議員が結城紬を着用する紬議会、市内中学生全員が結城紬の着心地を体験する授業などを行っている。また、インバウンドを中心とした観光需要を効果的に取り込むため、結城紬の伝統文化体験の充実を図り、それらを核とした魅力的な企画を展開し、国内外に向けて広く発信している。</p> <p>一方、県においては、後継者育成として、産業技術イノベーションセンター繊維高分子研究所で、約1年間にわたり機織り技術を中心に全工程を学べる研修を平成8年度から実施しているほか、需要開拓やブランドカ向上として、茨城県伝統的工芸品産地交流促進協議会による啓発イベントを実施している。</p> <p>また、令和5年2月に台湾で行われた茨城県主催の「いばらき大見本市」で結城紬の着心地体験を行ったほか、令和5年12月に水戸市で開催されたG7茨城水戸内務・安全担当大臣会合において、結城紬の着心地体験を行うとともに</p>	結城市大字結城11388 本場結城紬検査協同組合 理事長 奥澤 武治 外5名	秋元 勇人	<p>1 芸術・文化の新たな体験として、観光地やイベント、文化事業等において、気軽に結城紬を着用できる体験の機会を創出するなど、結城紬の魅力を広く発信すること。</p> <p>(現況)</p> <p>(1) 茨城アフターデスティネーションキャンペーン(DC)でのPR</p> <ul style="list-style-type: none"> 国内滞在中の外国人旅行者等を対象とした観光PRイベントにおいて、結城紬の着付けなどの和文化体験を実施した。 <p><茨城アフターDC 開幕直前PR イベント開催概要></p> <table border="1" data-bbox="1496 421 2063 528"> <tr> <td>日時</td> <td>令和6年9月30日(月) 12:00~16:30</td> </tr> <tr> <td>場所</td> <td>JR 東京駅ジャパンレールカフェ (東京都千代田区丸の内)</td> </tr> <tr> <td>来場者</td> <td>約1,000人</td> </tr> </table> <p>(2) 差別化コンテンツの確立</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和7年度から、本県ならではの観光コンテンツを磨き上げ、「珠玉の企画」として造成し、国内外に広く販売している。 <p><令和7年度 珠玉の企画の例></p> <table border="1" data-bbox="1496 671 2130 815"> <tr> <td>結城のまちで暮らすように旅する～結城紬で彩るまちなか特別体験～</td> <td>結城市内の古民家宿に宿泊し、結城紬の着物で城下町を散策しながら、結城紬コースターづくりなどを体験するプラン(海外OTA(Online Travel Agent)「VIATOR」で販売中)</td> </tr> </table> <p>(3) 本県観光のイメージ形成・ブランディングの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 県ホームページやSNSのほか、いばキラTVや県広報紙「ひばり」など各種広報媒体での魅力発信に加え、令和7年度から国内外に人気のテレビアニメ「薬屋のひとりごと」と都道府県初のコラボレーションを実施している。 <p><令和7年度 「薬屋のひとりごと」コラボレーションの概要></p> <table border="1" data-bbox="1496 1015 2130 1270"> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> 特設サイト ムービー ポスター </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 珠玉の企画スポットとして結城紬を紹介 声優を起用し結城紬を紹介(12万回再生) 全国のJR駅約700駅にて9月の1か月間、5連ポスターを掲出 </td> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> 山手線広告 スタンプラリー </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 11月後半の2週間山手線1編成にて広告掲出 10月から1月まで、県内10か所のスタンプ設置箇所の一つとして、結城紬をデザインしたオリジナルスタンプを設置(3か月で15,000人を超える参加) </td> </tr> </table> <p>2 結城紬の販路拡大、新しい商品の開発、県伝統工芸士の認定などを通じて、産地振興及び後継者の確保・育成につながる取組みを推進すること。</p> <p>(現況)</p> <p>(1) 販路拡大等に対する支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 展示販売会の開催、イベントでの結城紬製造実演、雑誌での記事掲載など 	日時	令和6年9月30日(月) 12:00~16:30	場所	JR 東京駅ジャパンレールカフェ (東京都千代田区丸の内)	来場者	約1,000人	結城のまちで暮らすように旅する～結城紬で彩るまちなか特別体験～	結城市内の古民家宿に宿泊し、結城紬の着物で城下町を散策しながら、結城紬コースターづくりなどを体験するプラン(海外OTA(Online Travel Agent)「VIATOR」で販売中)	<ul style="list-style-type: none"> 特設サイト ムービー ポスター 	<ul style="list-style-type: none"> 珠玉の企画スポットとして結城紬を紹介 声優を起用し結城紬を紹介(12万回再生) 全国のJR駅約700駅にて9月の1か月間、5連ポスターを掲出 	<ul style="list-style-type: none"> 山手線広告 スタンプラリー 	<ul style="list-style-type: none"> 11月後半の2週間山手線1編成にて広告掲出 10月から1月まで、県内10か所のスタンプ設置箇所の一つとして、結城紬をデザインしたオリジナルスタンプを設置(3か月で15,000人を超える参加)
日時	令和6年9月30日(月) 12:00~16:30																
場所	JR 東京駅ジャパンレールカフェ (東京都千代田区丸の内)																
来場者	約1,000人																
結城のまちで暮らすように旅する～結城紬で彩るまちなか特別体験～	結城市内の古民家宿に宿泊し、結城紬の着物で城下町を散策しながら、結城紬コースターづくりなどを体験するプラン(海外OTA(Online Travel Agent)「VIATOR」で販売中)																
<ul style="list-style-type: none"> 特設サイト ムービー ポスター 	<ul style="list-style-type: none"> 珠玉の企画スポットとして結城紬を紹介 声優を起用し結城紬を紹介(12万回再生) 全国のJR駅約700駅にて9月の1か月間、5連ポスターを掲出 																
<ul style="list-style-type: none"> 山手線広告 スタンプラリー 	<ul style="list-style-type: none"> 11月後半の2週間山手線1編成にて広告掲出 10月から1月まで、県内10か所のスタンプ設置箇所の一つとして、結城紬をデザインしたオリジナルスタンプを設置(3か月で15,000人を超える参加) 																

に、各国大臣への記念品として結城紬のショールを贈呈するなどPRに努めている。

さらに、令和4年度から令和6年度には、3年間にわたり「茨城デスティネーションキャンペーン」を実施し、結城市、地域の事業者と一体となって体験コンテンツの創出に取り組み、結城市の魅力を強力にアピールしてきている。昨年度からは、インバウンドをはじめとした旺盛な観光需要を効果的に取り込むため、結城紬の伝統文化体験などを磨き上げ、「珠玉の企画」として国内外に向けた魅力的な旅行商品を造成している。

結城紬事業者としても、茨城県、結城市や組合が一丸となって組織する茨城県本場結城紬振興事業実行委員会が、笠間焼や横山大観をモチーフとした変化に富んだ変り織帯「彩-irodori-」の制作などに新たに取組むほか、栃木県とも連携した本格的な新作発表会を本年1月に東京都内で開催し、よりドレッシーな新しい感性が融合した着物や、江戸時代結城市に滞在した詩人と謝蕪村をイメージした織絵羽など、晴れの日での着用のPRや新たな需要創出を目指している。また、生産者の中でも「糸つむぎ・緋くり・地機織り」の優れた技術保持者によって結成された本場結城紬技術保持会が、各工程の研修や講習会を実施し、後継者の育成に取り組み、研修で制作した結城紬は、市のイベントなどに活用している。

今後さらに、結城紬の魅力を広く発信し需要を拡大していくことは、産地の活性化のみならず、将来の担い手となる後継者の確保や育成にもつながる重要な課題である。

本年は結城紬が国の重要無形文化財に指定されてから70年という節目の年であることから、これを契機として結城紬のさらなる振興と認知向上を図ることが重要である。

このようなことから、茨城県が進める「体験王国いばらき」において、新たな芸術・文化の体験メニューとして、結城紬体験を推進することにより、茨城県の観光振興、経済振興に資する取組みを積極的に進めていただきたく、下記事項を請願する。

記

- 1 芸術・文化の新たな体験として、観光地やイベント、文化事業等において、気軽に結城紬を着用できる体験の機会を創出するなど、結城紬の魅力を広く発信すること。
- 2 結城紬の販路拡大、新しい商品の開発、県伝統工芸士の認定などを通じて、産地振興及び後継者の確保・育成につながる取組みを推進すること。
- 3 インバウンド施策を推進する中、日本の芸術・文化の紹介として、結城紬を含めた県内伝統工芸品の活用を推進すること。
- 4 結城紬が国の重要無形文化財に指定されてから70年を迎える本年、関係各位においても、結城紬のさらなる振興と認知向上に取り組むこと。

ど組合等が実施する販路拡大に向けた取り組みに対し、地場産業等総合支援事業費補助金や、茨城県伝統的工芸品産地交流促進協議会を通じて支援している。

<結城紬における主な支援の状況>

年度	支援対象
R7	・県外ギャラリー（名古屋・東京）における展示販売会の開催 ・祭りゆうき・きものday 結城での実演 ・雑誌「美しいキモノ」への広告記事掲載
R6	・県外百貨店（仙台・浜松）における展示販売会の開催 ・祭りゆうき・きものday 結城での実演 ・結城紬展の開催

(2) 首都圏における展示会の開催

- ・国指定の伝統的工芸品である結城紬、笠間焼及び真壁石燈籠の3産地が一体となった展示販売会を、令和7年度に東京都内で初めて開催した。

<開催概要>

日 時	令和7年6月6日（金）から19日（木）
場 所	伝統工芸青山スクエア※（東京都港区赤坂）
来場者	約2,800人

※日本全国の伝統工芸品を一堂に集め、展示販売を行う常設店舗

(3) 新商品の開発支援

- ・新たな需要の開拓を図るため、県繊維高分子研究所において、多様化する消費者ニーズに応じた結城紬の新商品開発を研究・支援している。

<新商品開発の例>

変わり織り帯 彩-irodori-	織り方を工夫することで、従来の結城紬にはない生地表面の凹凸感が特徴の製品
----------------------	--------------------------------------

(4) 茨城県伝統工芸士の認定等

- ・伝統工芸品製造者の意欲高揚と産業としての発展・認知度向上を図るとともに、技術の向上・後継者の育成及び伝統工芸品の次代への継承に寄与するため、茨城県伝統工芸品（工芸士）を指定（認定）している。

<結城紬における指定（認定）の状況>（R8.6現在）

県伝統工芸品	昭和63年指定
県伝統工芸士	29名認定

(5) 後継者の確保・育成

- ・結城紬産業の後継者確保及び技術水準の向上を図るため、県繊維高分子研究所において基礎的知識及び基本技術習得を目的とした後継者育成研修を実施している。

<研修の概要>（単位：人）

対象者	結城紬技術者として従事しようとする者または従事者
内 容	結城紬の製織技術を中心に、糸の準備や染色など一連の製造工程を体系的に学ぶ

<研修受講者数の推移>（単位：人）

年 度	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
受講者数	4	4	4	4	6

				<p>3 インバウンド施策を推進する中、日本の芸術・文化の紹介として、結城紬を含めた県内伝統工芸品の活用を推進すること。 (現況)</p> <p>(1) HP・SNSを活用した情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> 外国語版「観光いばらき」ホームページにおいて結城紬に関連する観光施設を紹介するとともに、特集記事の作成やモデルコースへの組み込みを行い、またフェイスブックやインスタグラムなどSNSによる情報発信を実施するなど、インバウンド誘客の促進に努めている。 <p><対応言語></p> <table border="1"> <tr> <td>言語</td> <td>英語、中国語（簡体字、繁体字）、韓国語、タイ語、ベトナム語</td> </tr> </table> <p>(2) 雑誌ライターによるモニターツアー</p> <ul style="list-style-type: none"> 駐日外交官やグローバル企業駐在員など、日本国内に居住する外国人を主なターゲットとして新たな旅の需要創出を図るため、在住外国人向けライフスタイル誌「Tokyo Weekender」のライター等を対象としたモニターツアーを実施し、その内容は同誌の誌面やSNSなどに掲載され、効果的な情報発信につなげることができた。 <p><実施概要></p> <table border="1"> <tr> <td>開催日程</td> <td>令和7年10月22日（水）</td> </tr> <tr> <td>モニター</td> <td>「Tokyo Weekender」ライター、インフルエンサー</td> </tr> <tr> <td>内容</td> <td>結城紬のはた織り体験、藍染め体験など</td> </tr> </table> <p>4 結城紬が国の重要無形文化財に指定されてから70年を迎える本年、関係各位においても、結城紬のさらなる振興と認知向上に取り組むこと。 (現況)</p> <ul style="list-style-type: none"> 国の重要無形文化財指定から70年という節目であることも踏まえ、関係団体や市などとも連携しながら、引き続き結城紬の魅力発信や産地振興、後継者の確保・育成などに取り組んでいく。 <p><文化財登録等の状況></p> <table border="1"> <tr> <td>昭和31年</td> <td>国「重要無形文化財」に指定</td> </tr> <tr> <td>昭和52年</td> <td>国「伝統的工芸品」に指定</td> </tr> <tr> <td>昭和63年</td> <td>県「茨城県郷土工芸品（現：茨城県伝統工芸品）」に指定</td> </tr> <tr> <td>平成22年</td> <td>ユネスコ「無形文化遺産」に登録</td> </tr> </table>	言語	英語、中国語（簡体字、繁体字）、韓国語、タイ語、ベトナム語	開催日程	令和7年10月22日（水）	モニター	「Tokyo Weekender」ライター、インフルエンサー	内容	結城紬のはた織り体験、藍染め体験など	昭和31年	国「重要無形文化財」に指定	昭和52年	国「伝統的工芸品」に指定	昭和63年	県「茨城県郷土工芸品（現：茨城県伝統工芸品）」に指定	平成22年	ユネスコ「無形文化遺産」に登録
言語	英語、中国語（簡体字、繁体字）、韓国語、タイ語、ベトナム語																			
開催日程	令和7年10月22日（水）																			
モニター	「Tokyo Weekender」ライター、インフルエンサー																			
内容	結城紬のはた織り体験、藍染め体験など																			
昭和31年	国「重要無形文化財」に指定																			
昭和52年	国「伝統的工芸品」に指定																			
昭和63年	県「茨城県郷土工芸品（現：茨城県伝統工芸品）」に指定																			
平成22年	ユネスコ「無形文化遺産」に登録																			